



天明三

伎題

行

も

どろ

梧

泉

撰

觀寸



三
景
之
畫
冊





No.

二とせ三年の鯉みちてことし
 弥生の半箱根路やうす紫の
 莖を踏て江嶋鎌倉の古きを
 たつね京都に入日は白木何某の
 別荘に遊裏をかけ深川には
 はせを庵のあかしをしたひ
 今戸の雪中庵には河師を



二とせ三年の鯉

仮寝して徘徊三十棒の日記

ふるま、今や 兵部の花祝

物水の水白 家酒の酒 爰に

おち（は）かしこに 湯たり

初茄子や 駿河を 乘了 掌

梧泉

炊きて 遊ふ 夏草の 庵

蓼太

旅 芭蕉庵 歌仙略

師とよもに 一日 亭舞に 遊ぶ

進上の 棧敷へ 來たり 初松魚

蓼太

雨 静亭

火別花ハ しくりに 盆地を 添へ

水草 ぬいと 清く 前川ハ 漕行舟の

路の 白波を 祝すを 床上の 足ものに

鏡 松無心 風來吟

沃庵 禅師

友川や右牛に持た了扇柄
 堀りりに遙の市を河日かふ
 交草や白きし墨子さうし布
 衿着て春の眠をさすしけし
 深川旅亭
 ほと、さす亭やいつしか銀河

即興

琴太
 左
 柳江
 雨静
 梧泉

をのつかり席上うつく斗にあん
 旧來予友を旨うの住居かふ
 吾仙下略
 半ハ諸候の御求にまか勢
 うれたるは庭梅の唐さハ
 大名に譲て深し、友木たち
 晚涼 二句
 梧泉

完末

卯月の半折よけ小は日光山の

御奈押奉之と震柳人を

す、めで旅より旅のあいた、しよ

落はぬ夢も四月の半かな
梧泉

宇都宮宿

一品法親王の御旅館進ぐやとりて

蚊遣史や旅の御坐も夜半果
完末

十七日御奈禮押之

御舎殿に下周しくぬ是かふ
梧泉

裏見滝

交寒き涼世の外や滝の裏
左

白雪のうら張る瀧す、し
完末

大日書王

葉の雪湧池の清水哉
全

岸つくる雲のはしめや筑波山

完末

筑波山行

高川や漲思●了水のをと

全

常陸下野の境鬼怒川

瀧霧や若葉の粟 木の葉

梧泉

よぢのほるまことに石の面
苔むしうしろの松いと肥たり

霧降滝

多は意忠心の耳を驚し
瀑布ハ止観の胸を洗ふ

くちけりは三千尺や流の月

夢大

廿年余り昔をりん 花明

此碑といとあり建たのよし

兼て夢閑傳くよれハ山上に

待らん ことへハ 翁笑て 我は
 幕の もの 己 人 流の 加まひす
 しきを 聞ん ずりハ 友に 座して
 朽風の 調へを たの しめり
 答ふ 昔言り 今言り
 驚き小 侍小ハ 侍哥の 口すき
 ちん 有知と ちハ 夫と 子ひ

あつし 合ふ 若葉 青葉の 峰ふ たつ
 様 の 尾より 細糸 趣く 山
 半 腋に ひこく の 毛翁 山 中
 寂寥 た 岩上 に 座して
 参詣 の 人の 半水 を 汲て いと
 閑え かつこ より かゝる けハ しか
 山 路を ゆく 稀に の 人 を
 梧泉

音す、し 別して 結子 男女川 合
 宗祇 法師の 名えく 住玉へ了
 観流 巻を たつねて
 山 清水 多くに 髪髪 髪や 洗せん 完珠
 土浦より 葎葎 葎の 浦に 舟を 走たり
 其乃 二日 路雨 吟歌 仙に 遊ぶ
 其の けし けしめ 鏡の 舟路 引 悟泉

多了 事し あり 折に 子水こ
 口には ありて 行る 此ころ つし
 おも しろ あり けしハ
 つく こと あり 其の 名つ、し
 先翁に 對了
 交蔭に 未社 額名 翁引 梧泉
 男女川
 水賣翁

風薫る千歳の松の御山卦
 途中吟
 た、すめはうしろに成ぬかへに鳥
 松石、ひ糸那にかへりて
 松亭にまぬかへり
 若くたく清水の中の清水卦
 六月、あけみ十加、之の栞
 定来
 梧泉
 三銘
 全

芳くきりや改東一の芳葉和
 影仰くあや代への要いし
 赤草に末をし川の行末卦
 浦風に
 香取の香取の小舟卦
 全
 全
 梧泉
 定来

蕨菜寂

庭下ハ鶴にニそあれ加其ニ多
短夜の子ヤを其紙の片葉

蕨菜
魯海

環源亭

交菊に甘露降之類
中しめん 蓮風の蝶多

一松泉
兆

異水行

葉にゆけん 川は莖あし 印多
一多お中の子もこ 通通し鴨

松泉
定米

舟中一吟

夕汐のみしあき 芦や 青嵐
甘海やあさ日ハ 海の志ろ 心
新おほ子禁ハ 小利又 夜木立

蕨菜
哥心
松泉

木母寺

人こりさむ夕たりの流

沙花

吾仙下略

後座探題名

あうまし

あうましに試楽調ふ茶か形

夢た

清水

津を經し柿の岩根中苔清水

老鳥

朱鷺鳴く松ハ昇丹の常川

吾心

百後

川がつちの跡さうけあしめんこ鳥

夢た

待乳山

鯨うりの夕越未長待乳山

梧久

八仙亭

葛川や舟おしかこ水の月

台

橘の香も有明に鏡より
 松 蔭
 諸大夫の翠摘り下納涼
 あや足
 蘭奢待
 柚の花や春に一本の蘭奢待
 歌心
 松かせ
 まつ風の香に澄月のすゝ之哉
 一兆

須 广
 わくらハに藻しほ火細し翠月百
 彭亨
 明 石
 あかしといけふこそおもしろ五月晴
 三駟
 立舞油
 まつやしつすゝし立舞油の月
 月七リ
 あらまけ

法隆寺

けと、まげ夢の匂や法隆寺

李浣

人

人の中のひとあり下馬の朝若葉

方壺

八重垣

おしの葉の八重垣つく水出雲崎

定米

みをつくし

す、し、さ、や、満、干、の、月、の、こ、を、つ、く、し

松泉

を、つ、く、探、題、の、香、名、に、寄、る

景、物、の、多、ま、り、の、よ、り

事、繁、け、小、は、略、之

之、音、勢、海、より、用、力

温、泉、の、花、に、卯、月、曇、の、山、路、外

月泉

天明三亥卯 卯月

